

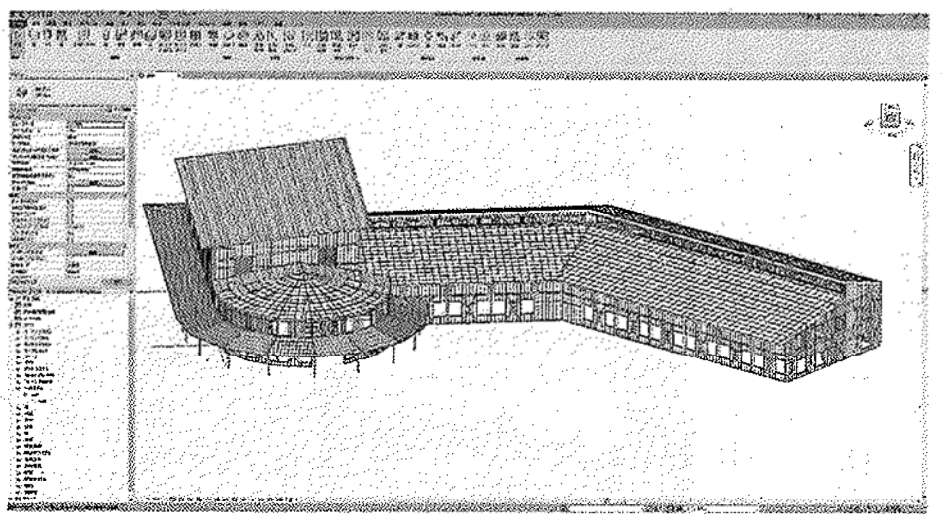
# データ変換サービスも開始

# プレカットCADのBIM変換ソフト開発

## ネットイーグル

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）は、同社のプレカットCADで作成した構造データをオートデスクのBIMソフト「Revit（レビット）」で読み込むためのインターフェースを開発した。これにより、木造軸組・金物工法プレカットCAD「XSTAR」、2×4CAD「XF24」、非住宅・大断面プレカットCAD「XF15」で作成したデータがBIMデータとして利用できるようになる。同社ではユーザーが作成したプレカットデータをBIMデータに変換するサービスも始める。

BIMは、意匠、構造、設備の各データを集約して一括管理し、3次元情報で持つことができる仕組み。建設業界ではRC造やS造で主に活用され、木造建築でも非住宅・中大規模建築を中心に活用に向けた取り組みが広がっている。国は2023年度までに小規模を除くすべての公共事業でBIM



XF15で作成したデータをレビットで読み込んだ画面

（東京都、今吉義隆社長）がこれを開発した。読み込めるのは、構造材、羽柄材、合板、金物で、金物は既製品の金物だけでなく、製作金物も実際の形状で渡せる。レビットでは基本的なレベル（高さ）や部材の名称、サイズのほか、各階の伏図、通りごとの断面図も出力できる。木造では、意匠は意匠CAD、構造計算は

構造計算ソフト、加工はプレカットCADで作成されるケースが多く、しばしば図面間で収まりの不具合が発生し、打ち合わせで修正することが多い。BIMを使えば、設計から加工、施工、維持管理まで同じデータで統一でき、3次元データで確認することで収まりの干渉などの不整合も事前に発見できる。BIMの3次元データを修正すれば2次元データにも反映さ

れるため、CADごとに図面を修正する手間が不要になるメリットもあるという。もっとも、BIMデータの提供が今後、どの程度の頻度で求められるかは見通しにく

変換するサービスも始める。プレカット工場は当面は同社にデータ作成を依頼し、物件数が増えたら自社でソフトを導入するという選択もできる。祖父江社長は「今後ゼネコンや大手住宅会社はレビットを使ってデータを管理していくと考えられ、構造確定データであるプレカットデータのBIM対応は必然と思われる。今後はレビットで作成された構造設計データをIFCデータで受け取り、そのデータを読み込んでプレカット設計できるようにする変換ソフトを開発する考え」と話す。